

# 生けるガラス

中川幸夫の花器

GLASS OF LIFE / LIFE OF GLASS  
YUKIO NAKAGAWA

2020.9.5 sat.-12.13 sun.

休館日：9月15日(火)、10月20日(火)、11月17日(火)  
主催：石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)  
協力：あーとらんどギャラリー、浦上蒼穹堂、富山県美術館  
日本女性新聞社、有限会社フォトス、や和らぎ たかす ※50音順  
後援：七尾市教育委員会



聖なる夜/1994年/カーネーション、自作ガラス 撮影：中川幸夫

【展覧会名】 特別展 「生けるガラス—中川幸夫の花器」

【会 期】 2020年9月5日(土)~12月13日(日)

\*休館日 毎月第3火曜日

開館時間 9:00~17:00(12月からは16:30まで) ※入館は閉館時間の30分前まで

【会 場】 石川県能登島ガラス美術館 展示室A、D

【出品作家】 中川幸夫

【作品点数】 75点(ガラス作品56点、写真作品19点)

【入館料】 高校生以上/個人 800円(20名以上の団体700円)、中学生以下 無料

【主 催】 石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)

【協 力】 あーとらんどギャラリー、浦上蒼穹堂、富山県美術館、日本女性新聞社、有限会社フォトス、  
や和らぎ たかす ※50音順

【後 援】 七尾市教育委員会

【お問合せ】 石川県能登島ガラス美術館

〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町125-10

TEL:0767-84-1175 FAX:0767-84-1129

E-mail: [glass@nanao-af.jp](mailto:glass@nanao-af.jp)

※会期中には、展示室B・Cにて当館のコレクション展も行います。

## ■ 展覧会について

中川幸夫(1918-2012)は既存の華道流派に属することなく、独自の花の表現を追求した孤高のいけばな作家です。花が生きて死ぬまでの姿を見つめ、その命のありようを生けた中川の作品や制作態度は、ジャンルを超えて今なお多くの作家たちに影響を与えています。

中川は埴埜(るつぼ)の中で溶解したガラスに感じた生命を花に重ね合わせ、ガラスを単なる花器としてではなく、花と等価の素材としていけばなの中で表現していました。本展では、「花を生ける、生きたガラス」として、中川が自身のいけばなのために制作していたガラス作品を中心に、いけばな作品の写真もあわせて展示することで、徹底して自由であり続けた中川幸夫の「命」の表現をガラスという切り口で紹介します。

## ■ 展覧会の特徴

### いのちの表現

中川幸夫は 1951 年、38 歳の時にそれまで所属していた池坊に脱退宣言を突きつけ、生涯にわたって独自の花の表現を追求しました。花と徹底的に向き合い、花が応えてくれる瞬間を待つ。それは花が朽ちていく過程でもありました。中川の代表作である「花坊主」(1973 年)は、真っ赤なカーネーション 900 本の花弁を女性の下半身のような形をしたガラス器に詰めて腐乱させたものを逆さまにして、染み出した花液を和紙に染み込ませています。花が悲鳴を上げ、血を流しているような作品は、花の命を最後まで見届ける中川のいけばなの姿勢を端的に表しています。その「いのちの表現」は、独自の道を貫いた反骨精神とともに現代の作家たちに影響を与えています。

### いけばな作家のガラス

*がらす に対しても埴埜(るつぼ)から取り出したビードロに熱い生命を感じこのドロドロした「ガラス」がどう花開くことが可能か考えるその経験のなかに がらす は花だと云う実感をもった*

(「はながらす と 私」『いけばな龍生』1981 年 7 月号より)

1967 年、上越クリスタル硝子株式会社が企画したガラス展に参加したことをきっかけに、中川幸夫は約 20 年に渡って同社の職人との協働で制作したガラス器を数多く残しています。中川がデザイン画を描き、職人の横についてコミュニケーションを取りながら制作されたガラス器の数々は、変幻自在なガラスの流動性を活かし、それ自体が生物か身体器官であるかのような有機的な形態を持っています。

本展では、ガラス専門美術館として、これまであまり注目されることがなかった中川のガラス器を中心に据え、いけばな作品の写真とともに展示することで、彼のガラス素材に対する解釈と、器と花を一体化させる独自の思考に触れてもらう場を作りました。

## ■ 中川幸夫(なかがわ・ゆきお)略歴

- 1918 年 香川県丸亀市に生まれる
- 1921 年 事故による怪我で脊椎カリエスを患う
- 1932 年 近土版画社(現・近土写真製版株式会社、大阪)で石版画職人として勤務(～38 年)
- 1941 年 病のため丸亀に帰郷
- 1942 年 伯母・隅ひさからいけばなを学ぶ
- 1945 年 平和写真印刷(香川)に勤務(～53 年)
- 1946 年 池坊・後藤春庭(京都)に立華を学ぶ
- 1950 年 「白東社(びやくとうしゃ)」(主宰:重森三玲)に参加、半田唄子(福岡・千家古儀家元)と出会う  
写真家・土門拳と出会い、写真技術を学ぶ

- 1951年 池坊脱退
- 1956年 東京に転居、半田唄子と結婚
- 1957年 「中川幸夫いけばな教室」「新しい花 いけばな教室」を半田唄子と開催
- 1967年 上越クリスタル硝子でガラス制作を始める
- 1978年 『華 中川幸夫作品集』『『世界で最も美しい本』国際コンクール』入賞(ライプツヒ/ドイツ)
- 1984年 半田唄子逝去(享年 77 歳)
- 1990年 映画『花いける』(企画:財団法人小原流企画、製作:岩波映画製作所)出演、題字制作
- 1994年 「おののき、花」『週刊朝日』連載
- 1999年 第 2 回織部賞グランプリ受賞、丸亀市文化功労者となる
- 2003年 東京から丸亀へ転居
- 2004年 第 11 回日本現代藝術振興賞受賞、第 20 回東川賞受賞(東川/北海道)
- 2012年 香川県坂出市にて逝去(享年 93 歳)

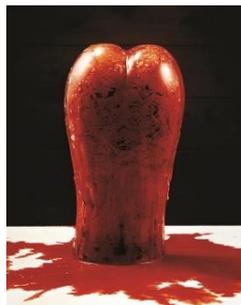
## ■ 広報用画像

画像 1～6 を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、美術館までお申し込みください。

TEL: 0767-84-1175 / FAX: 0767-84-1129 / Email: [glass@nanao-af.jp](mailto:glass@nanao-af.jp)



1. 聖なる書／1994 年／カーネーション、自作ガラス 撮影:中川幸夫



2. 花坊主／1973年／カーネーション900本、自作ガラス 撮影:牧直視



3. 西方へ／1994 年／百合、桔梗、サルビア、ユウカリ、鶏頭、金箔、自作ガラス 撮影:中川幸夫



4. 胎／1975 年／貝、自作ガラス 撮影:新居義久



5. 花神に／1975 年頃／個人蔵 撮影:高橋章



6. ぼくの昆虫記／1990 年／個人蔵 撮影:高橋章

※1～4は写真作品、5、6 はガラス作品

### < 使用条件 >

- ・ 広報用画像の掲載時には各画像のキャプションおよびクレジットを明記してください。
- ・ トリミング、画像への文字乗せはご遠慮ください。
- ・ 情報確認のため、校正紙を当館までお送りください。